

【別紙】

「遠隔要約筆記支援システム」の概要について

「遠隔要約筆記支援システム」は、聴覚障がい者向けの要約筆記を遠隔地から実施し、支援者である要約筆記者の負担を低減するクラウド型のシステムです。

1. 特長

(1) 遠隔地からでもその場にいる様に要約筆記が可能

1) カメラ映像とマイク音声を使って遠隔からリアルタイムに要約筆記支援が可能

聴覚障がい者（利用者）がいる会場や教室の音声や映像、遠隔地の要約筆記者（支援者）が入力する要約文が、インターネットを介して相互配信されるため、これまで支援者の手配が難しかった地域でも、要約筆記支援を実施することが可能です。

2) 支援者同士が離れていても連携して要約筆記が可能

急用による交代要請やそれぞれの対応状況を支援者全員が画面上でリアルタイムに共有することで、スムーズな連携による要約筆記支援ができます。

3) 支援者と利用者間で音量レベルを視覚的に共有することで適切な音声配信が可能

利用者は支援者端末が受信している音量レベルをモニタリングすることで、自分の端末から適切なレベルの音声支援者に届いているか確認することができます。また、支援者は利用者端末のマイク音量を遠隔地から調節できるため、適切な音量で音声を聞きながら要約筆記することが可能です。

(2) 依頼に対し支援者をスピーディに調整（マッチング）

利用者による要約筆記依頼から全支援者への依頼の一括通知、支援者による登録まで、一連の流れをサポートすることにより、支援者を配置する調整時間を短縮することができます。また、大学などで学生が参加する複数の授業や、定期的に行われる授業などに対して一括で支援者を設定することが可能なため、支援者調整の手間を低減できます。

(3) 利用者と支援者のつながりを支援

利用者が指定する支援者のみが参加できるように設定が可能です。これにより、利用者は日頃信頼する支援者を指名することで、安心して支援を受けることができます。

2. 利用効果

(1) 支援依頼に対応した支援者の配置を実現

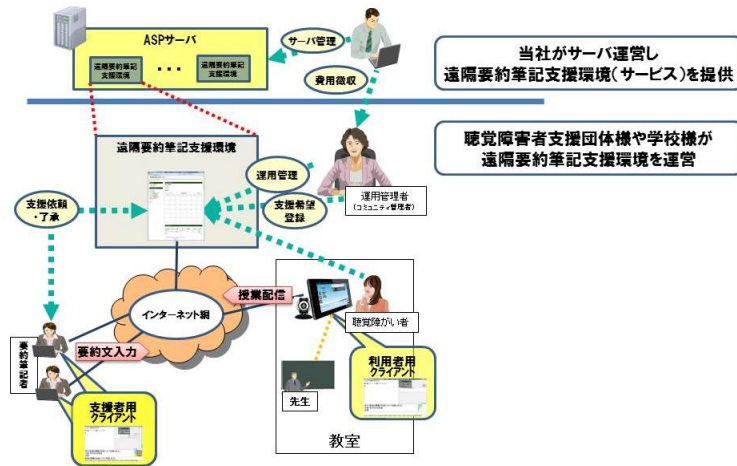
学校や地域を限定せず、支援者の量的確保や支援参加の機会を広げることができます。そのため、要約筆記の知識やノウハウを持った学生の卒業などによる支援途絶を防ぎます。

(2) 調整担当者の作業を軽減

依頼がオンラインで登録されると、システムが自動的に支援依頼メールを支援者へ一斉送信するため、調整作業の省力化が可能です。支援依頼や支援者からの回答などがクラウドサーバを通じて管理できるため、運営者の負担を軽減します。

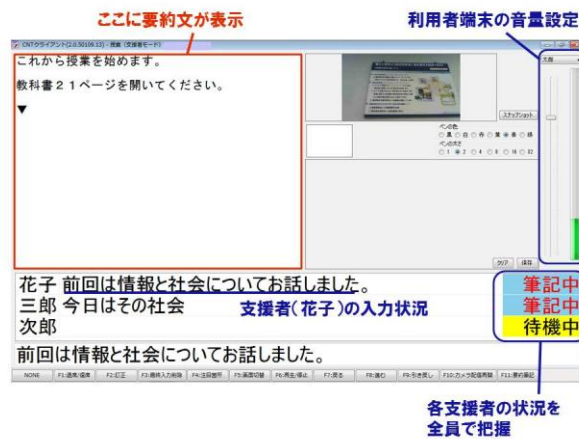
なお、本システムは、(独)情報通信研究機構の情報バリアフリー事業助成金（2011年度）を受けて開発いたしました。

3. 運用イメージ



4. システム利用イメージ

(1) 遠隔要約筆記支援クライアントソフトウェア（支援者のアプリ画面）



(2) 運用サーバ（利用者と支援者のマッチング）

遠隔要約筆記支援システム

現在「app-001」でログインしています

コミュニティの運営・管理

- コミュニティ運営管理メニュー
- コミュニティ管理
- コミュニティ運営管理の強化/調整
- コミュニティ参加者の管理
- コミュニティ参加者の検索
- コミュニティ参加者の検索/管理
- コミュニティ参加者の検索/管理
- コミュニティ参加者の検索/管理
- コミュニティ参加者の検索/管理
- コミュニティ参加者の検索/管理

授業の内訳/変更/削除

イノベラボ学園

イノベラボ学園
学科: 支援者

授業の作成

2015年3月						
日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31	1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11

毎週繰り返しの授業を一括で設定

以上